

銅・アルミ

市況見通し

2月

銅

品種別では銅条が2万2978トで同10%増、黄銅棒が1万4545トで同8%増、銅管が7141トで同1%増、黄銅条が8273トで同8%増、青銅板が2403トで同4%減だった。

2021年12月の伸銅品生産(速報値)は、前年同月比で7.2%増の6万2640ト。19年12月より4.7%増加したが、18年12月より12.6%減少した。

12月の銅電線出荷量は同0.8%減の5万3800トで、うち国内が同0.7%減、輸出が同2.5%減だった。銅輸出は、電気銅が同0.5%減の4万4908ト、銅スクラップが同41.4%減の2万9265ト。銅輸出は電気銅、スクラップ共

に内需の旺盛に伴い減少した。銅輸入は、電気銅が同58.2%減の646ト、銅スクラップが同13%増の1万406トだった。銅輸入は、電気銅が割高感から減少、スクラップは内需の旺盛から増加した。

2月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9500~10500 ^{ドル}	強い
電気銅建値	109~125万円	強い
為替(1 ^{ドル})	110~115円 (1カ月間T/M)	横ばい

銅スクラップ景況予想

電気銅建値は118万円から120万円と結果的に高値安定だった。ただ、コロナ禍による生産減でスクラップ発生は減少、出物が無く在庫薄となつてい

とて引き下がるわけにもいかず、当面はお互いの「引かない演出」が続くのではないかと見ている。後者は中国に関して北京オリンピック終了後、経済再生のための生産再開・金融緩和が行われるのではないかと。米国ではFOMCが同12.1%減の135ト、アルミ二次合金が同19.1%増の199ト、アルミスクラップが同26.6%増の2万2347ト、アルミ缶が同44.5%減の5358ト。アルミ輸出は、自動車生産の減少を受けて二次合金・スクラップが増加した。輸入はアルミ新地金が同3.5%増の10万6375ト、アルミ二次合金が同5.7%増の10万762ト、アルミスクラップが同44.1%増の617ト、アルミ合金スクラップが同21.8%増の8257トだった。アルミ輸入は、輸入塊の高騰による代替需要の国内玉の不足から、大幅増となった。

需要は今のところ、前月に続き中国の部品調達遅れからの自動車生産、販売が大幅に減少傾向。しかし、伸銅品は挽回生産に向けた在庫積み上げから需要が旺盛。仮に急落してもその価格での販売に躊躇する問屋も多い。定期で入らないメーカーが高値で買う傾向が、今月も続くだろう。

アルミ

12月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同6.3%増の15万3538トで2カ月連続のプラスとなった。生産量は板類が同9.1%増(2カ月連続のプラス)の9万2569ト、押出類が同2.4%増(2カ月連続のプラス)の6万

12月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同6.3%増の15万3538トで2カ月連続のプラスとなった。生産量は板類が同9.1%増(2カ月連続のプラス)の9万2569ト、押出類が同2.4%増(2カ月連続のプラス)の6万

前者は、一触即発とも思われる報道も一部ではあるが、正面切つての戦争でロシアが勝つ可能性はない。さ

2月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2900~3100 ^{ドル} (現物後場買い)	強い
スクラップ	ゼロ~プラス10円 (前月最終価格より)	強い

アルミスクラップ景況予想

LME価格は2800(3100^{ドル})と高騰したが、自動車生産、住宅着工数の減少から売りにくい状況。このため、「流通(二次問屋)の入荷も少ない見通し。需要面は、北京オリンピック終了後の中国での挽回生産から、メーカー需要が回復すると見ている。

橋本アルミ取締役

橋本 健一郎氏レポート

